



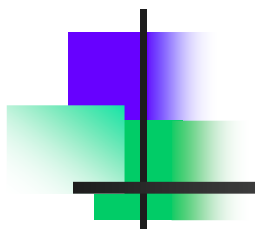
XML Consortium

～ 第10回 XMLコンソーシアムWeek ～

Webサービス実証部会

気象防災情報XMLを使った実証実験α版のご紹介

気象庁(仮)編



2009年1月9日

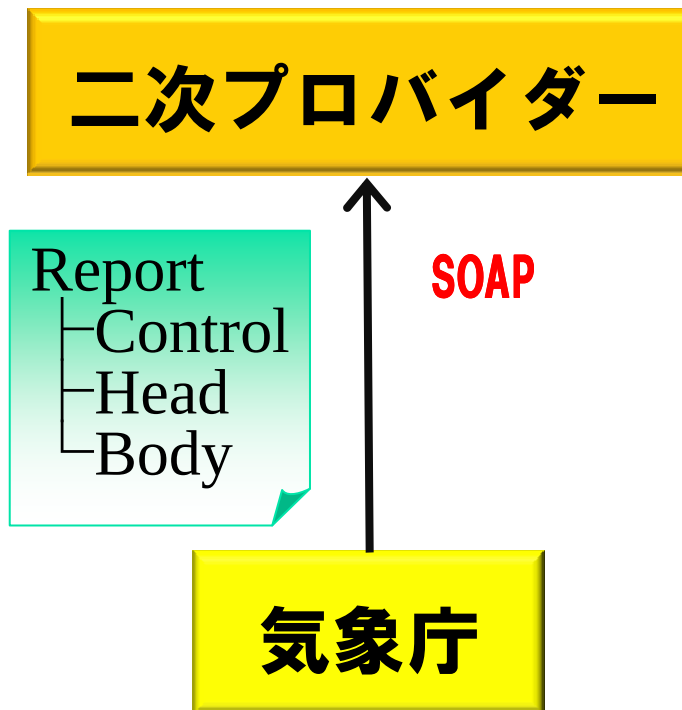
キャノンソフト情報システム

上村準也

気象庁(仮)の機能



- 気象庁のフリをしてデータを送信する
 - サンプル文書をそのまま**SOAP**で
 - サーバプログラムではなく、開発作業用のツール



- **作業用のデスクトップ機はWindowsがメイン**
 - 特別なランタイムを必要としない、簡便なものが良さそう
- **MSSOAP(mssoap1.dll)を使って送信**
 - Windows XPで既存のコンポーネント
 - やや低レベルのAPIでSOAPのメッセージを直に組み立て
 - サンプル文書の操作はMSXML(msxml3.dll)のDOMで
- **ツール作成のためのツール(?)はJavaで実装**
 - JDK6 に標準で含まれているJAX-WSを使用
 - WSDLは二次プロバイダーとほぼ同じものを使用

- WindowsとJavaで疎通が難しいのでは？という懸念
 - 荒本氏が様々なプラットフォームを見越して作成した、シンプルなWSDLのため、特に問題がなかった

■ サンプル文書の取り扱い

- すべての文書で共通のControl要素、Head要素が存在するため、汎用的なツールが作り易い
- Body要素以下の細かな処理には、ツールでプラグイン的な仕組みを採用するのが良さそう
- サーバやツールで処理情報を少し付け加えられる場所があると便利そう
 - プログラムの名前や転送時刻、転送経路など